

樹木等維持管理業務委託共通仕様書

1 植物管理の目的

(1) 植物管理の特質

植物管理は、剪定・病虫害防除・施肥・灌水等を通じ、植物の健全かつ均整のとれた生育を促し、植栽目標に近づける「育成管理」を基本とする。この点において、当初の機能・性能・価値を維持する「施設の維持管理」とは性格が異なることに留意すること。

(2) 植栽目標

植栽の目標形は樹種・植栽場所など条件により様々であり、目標形を監督職員と協議し、確認した上で適切な管理を行わなければならない。

2 適用範囲

- (1) 樹木等維持管理業務委託共通仕様書（以下「共通仕様書」という。）は、市川市が発注する公園、緑地、施設および街路樹その他樹木等維持管理業務に係わる委託契約書（以下「契約書」という。）の内容について、必要な事項を定め、もって契約の適正な履行の確保を図るためのものである。
- (2) 契約図書は、相互に補完し合うものとし、契約書および設計図書のいずれかによって定められている事項は、契約の履行を拘束するものとする。
- (3) 特記仕様書、数量表および共通仕様書の間に相違がある場合、受託者は、監督職員に確認して指示を受けなければならない。
- (4) 受託者は、信義に従って誠実に業務を履行し、監督職員の指示がない限り業務を継続しなければならない。但し、契約書に定める作業の変更、中止を行う場合は、この限りではない。

3 用語の定義

共通仕様書に使用する用語の定義は、次の各項に定めるところによる。

- (1) 「委託者」とは、市川市をいう。
- (2) 「受託者」とは、業務の実施に関し、委託者と委託契約を締結した個人または会社その他の法人をいう。
- (3) 「検査職員」とは、業務の完了の検査にあたって、委託者が検査を行う者として定めた者をいう。
- (4) 「契約図書」とは、契約書および設計図書をいう。
- (5) 「仕様書」とは、共通仕様書および特記仕様書（これらにおいて明記されている適用すべき諸基準を含む。）を総称していう。
- (6) 「共通仕様書」とは、当該業務に共通する技術上の指示事項等を定める図書をいう。
- (7) 「特記仕様書」とは、共通仕様書を補足し、当該業務の実施に関する明細または特別な事項を定める図書をいう。
- (8) 「協力者」とは、受託者が業務の遂行にあたって、再委託する者をいう。
- (9) 「監督職員」とは、契約の履行についての受託者に対する指示、承諾または協議を行

う権限を有する者をいう。

4 業務担当に関する事項

4-1 業務責任者の適正な配置

- (1) 受託者は、その受託した業務の適正な作業を確保するため、当該作業現場に業務責任者を配置し、受託業務の管理および統括を行わなければならない。
- (2) 業務責任者は、当該受託者と直接的かつ恒常的な雇用関係にある者で、常時継続的に当該作業現場においてその職務に従事するものとする。
- (3) 業務責任者は、市民からの問い合わせや要望があった時は真摯に対応すること。また、受託業務外の内容についてはその内容を監督職員に連絡すること。

4-2 再委託

- (1) 受託者は、その受託した業務を一括して他人に行わせてはならない。
- (2) 受託者は、あらかじめ委託者の書面による承諾を得た場合に限り、当該業務の一部を再委託することができる。この場合において、受託者は、不必要な再委託を行ってはならない。
- (3) 受託者は再委託に付する場合には、次の各号に掲げる要件をすべて満たされなければならない。
 - ア) 受託者が再委託業務について「業務計画の作成」、「工程管理」、「出来形・品質管理」、「完了検査」、「安全管理」、「協力者への指導監督」等について主体的な役割を現場で果たすこと。
 - イ) 協力者が市川市の入札参加業者適格者名簿に登録された者である場合には、指名停止期間中でないこと。
 - ウ) 協力者は、再委託する業務の履行能力を有すること。

5 提出書類及び納品図書など

5-1 業務計画書

- (1) 受託者は、契約締結後14日以内かつ、業務開始までに計画工程表、作業方法、安全管理その他次の各号に掲げる事項を盛り込んだ業務計画書を監督職員に提出し、監督職員の承諾を得ること。尚、監督職員に不備を指摘された場合はただちに修正を行い、監督職員の承諾を得てから、業務に取り掛かること。
 - ア) 業務概要
 - イ) 計画工程表
 - ウ) 現場組織表（業務責任者、作業員名簿、業務に必要な資格の控え、施工体制台帳等）
 - エ) 使用機材、車両（車検証の控え等）
 - オ) 主要材料（MSDS等）
 - カ) 作業方法
 - キ) 施工管理計画（出来形管理、品質管理、写真管理等）
 - ク) 安全管理（安全訓練等の実施）
 - ケ) 緊急時の連絡体制（休日の連絡先、救急病院への案内図等）

- コ) 交通管理(作業帯図、交通規制帯図等)
 - サ) 環境対策
 - シ) 現場作業環境の整備
 - ス) その他当該業務に必要と認める事項
- (2) 受託者は業務計画書を遵守し、受託業務にあたらなければならない。

5-2 作業写真

- (1) 受託者は、千葉県写真管理基準に則って写真管理を行うこと。尚、夜間撮影においては高感度(ISO400以上)カメラにて撮影し、作業内容が分かるようにすること。
- (2) 受託者は、前項の作業写真について日々整理を行い監督職員から請求があった場合に、ただちに提示しなければならない。

5-3 納品図書

- (1) 受託者は、業務が完了したときは、納品図書として次に掲げる書類および完了届を委託期間満了日までに提出し、検査を受けなければならない。
 - ア) 出来高数量表(平面図、求積図等出来高の分かるものを添付すること)
 - イ) 実施工程表(計画工程表と比較できるもの)
 - ウ) 打ち合わせ記録簿(Eメール・口頭協議・指示も記録簿に残すこと)
 - エ) 作業報告書(作業内容、日時、天候、作業人数、使用機械、氏名等の分かるもの)
 - オ) 各種伝票の写し(主要材料、発生材等)および集計表
 - カ) 作業写真(作業前、作業後、作業中がはっきりとわかるもの。尚、写真に日付を写しこむこと)
 - キ) 安全教育等記録の写し
 - ク) 農薬使用記録簿の写し
 - ケ) その他当該業務に必要と認めた書類

6 業務上の注意事項

6-1 業務の協議・連絡

- (1) 監督職員との協議・記録
 - ア) 受託者は業務着手にあたり監督職員と良く話し合い、剪定の目的・目標・留意事項などを良く理解したうえで、作業計画を作成し、各々の作業を適切に行うこと。
 - イ) 協議した内容は、必ず打合せ記録簿に残すこと。特に、業務上の重要点や施行原則を変更する場合などは丁寧に記載すること。
- (2) 受託者は作業実施にあたり、週間予定表および実施報告書を週初めまでに監督職員に提出すること。
- (3) 受託者は週間予定表に則って作業を行い、予定の変更がある場合は事前に監督職員に連絡すること。
- (4) 作業中、以下のような問題・異常を発見した場合には監督職員に報告し、対応策を協議すること。
 - ・人、車等の通行箇所において、安全性に問題が生じる可能性がある場合(倒木、枝

折れ等)

- ・樹木、草本の異常（病虫害など）を発見した場合
- ・そのほか、樹木以外の異常（防犯・防災に関する異常など）を発見した場合。

6-2 土地への立入り

受託者は、当該業務を実施するため、国有地、公有地または私有地に立入る場合は、監督職員および関係者と十分な協議を行い、業務を円滑に履行するよう努めなければならない。尚、やむを得ない理由により現地への立入りが不可能となった場合には、ただちに監督職員へ報告し、指示を受けなければならない。

6-3 業務上の配慮事項

- (1) 受託者は、業務従事者の服装や行動について、施行場所の利用者および近隣住民に不快感を与えないように配慮するとともに、業務の実施にあたり、事前に近隣住民や利用者等に案内等の周知を図るものとする。
- (2) 受託者は、業務の実施に際しては、適切な環境対策を実施し、円滑な業務遂行に努めなければならない。

6-4 緊急時の連絡体制

受託者は、災害等が発生した場合および発生が予測される場合は、臨機の対応がとれるよう緊急時の連絡体制に基づいて、被害を最小限に食い止めるものとする。

6-5 廃棄物の処理

- (1) 業務で生じるによる発生材(剪定・刈込の枝葉、刈り取った草など)については一般廃棄物とし、適切に処理した旨を示した伝票を提出しなければならない。
但し、特記事項のあるもの(草刈・芝刈における「刈りっぱなし、集草まで、運搬まで」など)はこの限りではない。
- (2) 業務で生じる発生材以外の塵芥については1箇所収集・分別し、その処理については監督職員と協議すること。

7 業務上の義務・責務

7-1 安全等の確保

- (1) 受託者は業務の実施にあたり、作業着手前までに関連作業員を集めて適切な時間をかけて新規入場者教育および、当該業務に必要な安全衛生教育を行うこと。また、業務途中で新たに加わる作業員についても同様に新規入場者教育および安全衛生教育を行うこと。
- (2) 受託者は作業開始前に作業員全員を集めて、当日の作業内容による安全教育(KYK)等注意点を確認してから作業を行うこと。
- (3) 受託者は、業務の実施に際して適切な作業帯・交通規制帯の設置および交通誘導員を配置し、作業員の安全確保と共に付近住民、通行人および通行車両等第三者の安全確保に努めること。

- (4) 受託者は、業務の実施に際しては、労働安全衛生法その他関係法令に基づく措置を講じておくこと。
- (5) 受託者は、業務実施中の安全管理について、適時巡視を行って指導および監督に努めること。
- (6) 上記の安全教育等に関してはすべて記録に残し（日時、内容、参加者、状況写真等）、写しを納品図書と合わせて提出すること。

7-2 守秘義務

受託者は、業務の実施過程で知り得た秘密を第三者に漏らしてはならず、かつ、他の目的に使用してはならない。契約終了後も同様とする。

7-3 法令順守等

- (1) 本仕様書に定めのない業務上必要な軽易な事項については、関係法令等を遵守し、受託者の責任において処理するものとする。
- (2) 受託者は、その使用人とは適正な雇用契約を結び、労働関係法令を遵守しなければならない。
- (3) 業務の履行に当たっては、労働基準法その他関係法令を遵守しなければならない。
- (4) 道路上の作業になる場合は、作業に先立ち「道路使用許可証」を取得し許可条件を遵守すること。

8 損害賠償等

- (1) 受託者は、当該業務の実施に伴って受託者の責に帰すべき理由により第三者に損害を及ぼしたときは損害を賠償しなければならない。
- (2) 業務実施中に事故が起こったときは、ただちに関係機関に通報するとともに、受託者は自らの責任において処理するものとする。
- (3) 前項の場合において、受託者は、事故の経緯について、事故発生後ただちに監督職員に口頭連絡し、その後速やかに書面をもって経過報告すること。

9 その他

- (1) 委託者は受託者の業務履行状況を不適当と認めた場合は、その理由を明示し業務の改善を受託者に求めることができる。
- (2) 受託者は委託者より改善を求められた場合は原因追求を行って業務の改善を図り、原因・改善方法について委託者に改善報告書を提出し、承諾を得てから業務の再開をしなければならない。
- (3) 受託者は、委託者からの指示に対しては、迅速な処理を行うとともに、早急に結果を報告するものとする。
- (4) その他、本仕様書に定めのない事項については、千葉県土木工事共通仕様書「植栽・緑地管理編」を参考に監督職員と協議し、決定するものとする。

江戸川河川敷緑地等総合維持管理業務委託特記仕様書

この仕様書は、委託者が発注する下記の業務に関して、受託者が当該業務を履行するために必要な事項を定めるものとする。

- 1 件 名 江戸川河川敷緑地等総合維持管理業務委託
- 2 業務目的 本業務委託は、江戸川河川敷緑地等において剪定・草刈・清掃等維持管理を行って、年間を通じて市民が安心・安全・快適に利用できることを目的とする。
- 3 委託場所 市川市市川南4丁目6番外
・委託箇所一覧・参考数量表（別紙3）参照
- 4 委託期間 令和7年6月2日～令和8年3月19日
- 5 業務内容
 - ア) 業務内容・予定数量
 - 江戸川河川敷緑地や河原駐車場の剪定・草刈・清掃などを実施する。
 - ・案内図（別紙1）、業務内容・予定数量一覧表（別紙2）参照
 - イ) 実施条件
 - 実施環境
 - ・江戸川河川敷緑地は、範囲が広く、日ごろからレクリエーション目的の利用が多い場所である。また、河川敷内での作業では足元に十分留意し、作業範囲の確認を事前に行うこと
 - 実施上の留意事項
 - ・住宅が付近にある箇所では作業時に塵埃を起こさないよう注意すること。
 - ・作業時間は原則として8時から17時までとする。
 - ・河川管理用通路を移動する場合には利用規則を委託者と確認し遵守すること。
 - ・河川際の作業時には、作業時の発生材等が河川に流出しないよう十分に留意すること。
 - ・剪定及び刈込後、樹高3m未満の樹木及びシュロ・ヤシ・ソテツ等特殊樹木については幹周にかかわらず中木とする。
 - ・キョウチクトウ、サンゴジュ、ネズミモチ、ツバキ類の株立ち物の剪定及び刈込については、樹高3m以上であっても基本的に中木とする。
 - ・委託期間中の不適切な管理（草刈時・灌水不足等）により樹木が枯損した場合は、受託者の負担で同等樹木の補植を行うこと。
 - ・各作業による発生材は速やかに片付を行うこと。
 - ・期毎の現地確認において、各種剪定、刈込において不備が認められた場合は、受託者の責任において不備を解消すること。

- ・剪定作業の際、樹木に鳥の巣がある場合には、卵及び雛の有無を確認し、取扱いについて監督職員と協議（原則監督職員立会の下、撤去とする）すること。
- ・市民からの苦情があり、その解消のために監督職員からの「口頭」「書面」などによる指示が有った場合は、直ちに指示された業務に取りかかること。（日時を指定されたものは厳守すること）なお、苦情以外の「口頭」「書面」などの指示に対しても速やかに履行すること。

6 業務担当に関する事項

ア) 業務責任者の資格

- ・業務責任者は「1級または2級造園施工管理技士」とする。

イ) 配置資格者の身分

- ・「1級又は2級造園施工管理技士」、「1級又は2級造園技能士」、「街路樹剪定士」、「千葉県農薬管理指導士」の資格を有する者は、受託者と直接的かつ恒常的な雇用関係にある者とする。

7 実施方法

■ 樹木剪定

<共通事項>

- ア) 資格者の配置……作業中は「1級又は2級造園技能士」若しくは「街路樹剪定士」を配置し、適切な指導管理の下作業を行うこと。
- イ) 樹木剪定の目的……剪定は樹形の骨格づくり、樹冠の整正、こみすぎによる病虫害及び枯損枝の発生防止等を目的とする。
- ウ) 協議と記録
 - ・樹木剪定着手にあたり、受託者は監督職員と良く話し合い、剪定の目的・目標・留意事項等を良く理解したうえで、各々の作業を適切に行うこと。
 - ・協議した内容は、必ず打合せ記録簿に残すこと。特に施行原則（Ex. ぶつ切り、芯止めの禁止）を変更する場合や業務上の重要点は丁寧に記載すること。
- エ) 剪定方法は、それぞれの樹種、樹形に応じて、最も適切な方法（枝すかし、切詰め、枝抜き、切返し、枝おろし等）によって行うこと。
- オ) 樹木の樹姿及び仕立て方
 - ・景観上の目的から規格形にする場合を除き、自然形仕立てとする。
 - ・特に必要と認められる場合を除き、見通し等を考慮するとともに、通風、採光、通行等において障害となる枝は除去すること。
 - ・樹木の上方や南側の樹勢が盛んな部分は強く、下方や北側の樹勢が弱い部分は弱く剪定すること。
- カ) 剪定作業上の留意事項
 - ・ぶつ切りは原則として行わない。やむを得ずぶつ切りを行う場合には監督職員と十分に協議を行うこと。
 - ・太枝については二段伐りを行うこと。尚、必要に応じて、吊り切り等の安全対策を施すこと。

- ・樹形に応じて芯止めが必要な場合は、監督職員と協議して決定すること。
 - ・桜については直径 2 cm 以上、その他の樹木についても直径 5 cm 以上の切り口については、癒合剤を塗り樹木の養生を行うこと。
- キ) 敷地境界の離隔、安全性等の確保のため、以下を原則とする。
- ・官民境界沿いの樹木については民地に越境しない様に、官民境界から 1m 以上離して剪定すること。
 - ・道路沿いの樹木については、車道上 4.5m、歩道上 2.5m の建築限界を守ること。但し、樹高が低い場合は監督職員との協議を行って、剪定量を決定すること。
 - ・広場等人の立ち入りができる場所は、地盤面から 2m 以下の下枝を切り落として通行に支障を生じないようにすること。
 - ・遊器具の安全領域内に侵入している枝は、根元より除去すること。
 - ・交通への視覚阻害（視距、信号機・標識の視認）、死角の要因となる枝葉は除去し、見通しを確保する。
- ク) 不要になった棕櫚縄・幹巻材等及び、不用意に取り付けられた鉄線等は取り除くこと。
- ケ) 作業中、以下のような問題を発見した場合には監督職員に報告し、対応策を協議すること。
- ・人、車等の通行箇所において、倒木・枝折れ等安全性に問題が生じる可能性がある場合
 - ・病虫害を発見した場合
- コ) 作業にあたっては、以下のような配慮を行い安全確保に努めること。
- ・作業にあたっては人、車等の通行場所の安全確保を確実に言い、事故を防ぐこと。
 - ・高所での作業は、原則としてフルハーネス型とするが、着用者が墜落時に地面に到達するおそれのある場合（高さが 6.75m 以下）は、胴ベルト型（1 本つり）の墜落制止用器具を着用し、安全対策を十分に行うこと。
- サ) 以下のような作業を行う際には、監督職員と協議し、周辺住民や利用者に対して事前に作業の内容、作業日時などについて「看板」等にて十分周知すること。
- ・公園等におけるシンボルツリーのような主要な樹木の剪定を行う場合
 - ・やむを得ずぶつ切りや強剪定等の樹木の容姿を著しく損なうような剪定を行う場合
 - ・公園等の広範囲の樹木について大規模な剪定を行う場合
- 高木基本剪定、マツ基本剪定
- ア) 樹形の骨格をつくることを目的とする。
- イ) 剪定時期は、原則として 10 月以降とする。但し、夏期の実施については、十分に監督職員と協議して決定すること。
- ウ) 原則として極寒時は、暖地性樹木の剪定は避けること。
- 高木軽剪定
- ア) 樹冠の整正及び枝の込みすぎによる枯損枝の発生防止を目的とする。

イ) 切詰め、枝すかし(枝抜き)等を主体とし、全体として枝葉量を減少させて台風による転倒対策を行いつつ、外輪部には葉を残して日陰をつくること。

○ 中木剪定

ア) 樹形の骨格をつくることを目的とする。

イ) 剪定及び刈込後、樹高 3m 未満の樹木及びシュロ・ヤシ・ソテツ等特殊樹木については幹周にかかわらず中木とする。

ウ) キョウチクトウ、サンゴジュ、ネズミモチ、ツバキ類の株立ち物の剪定及び刈込については、樹高 3m 以上であっても基本的に中木とする。

○ 寄植、生垣刈込

ア) 樹木の特性に応じて適切な時期及び刈込量等を十分に監督職員と協議し、決定すること。

・花卉類は、花芽の分化時期と着生位置に留意し刈込を行うこと。

イ) 敷地境界・施設からの離隔等

・官民境界沿いの樹木については民地に越境しない様に、官民境界から 50 cm 以上離して刈込むこと。

・車道・歩道に面した部分は、境界から 10 cm 程度公園側にて刈込むこと。又、刈込高さは、特に目隠しとして必要と認められる場合を除き、地際から概ね 1m 以下の高さとし、防犯上周囲から公園内が見通せるようにすること。尚、交差点に面したコーナー部分は車両運転手の見通しを確保するため、角から 5m 程度は車道から 80 cm を超えないように刈込むこと。

・公園及び敷地内の通路に面した部分は、植樹ブロックの内側にて刈込みを行い、通路幅を確保すること。

・原則としてベンチ周辺(概ね 50 cm 程度)及び、遊具の安全領域内に樹木が越境しないよう刈込を行うこと。

ウ) 仕立て方の留意点

・枝の込み合っている部分は中透かしを行うこと。

・列植ものは高さ・幅の通りを通すこと。

・刈込面に枝の切口(直径 1 cm 程度以上)があるとき及び、切口を傷めた場合は切り戻しを行うこと。

・生垣刈込は 1 度で刈込まないで、数回の刈込を通して徐々に刈地原型に仕立てること。特に、ヒノキやサワラのように不定芽の発生しにくいものは注意深く行うこと。

・生垣刈込の上幅は下幅よりも狭くすること。(概ね 3~5 厘勾配程度)

・生垣及び列植部において枝葉の疎放な部分は、必要に応じて疎密をなくすように枝葉の誘引を行うこと。

エ) 管理目標にはない植物の除去

・刈込範囲内に、実生の木がある場合は根元より除去を行うこと。

・蔓性植物が樹木に絡まっている時は除去すること。

○ 支障枝剪定

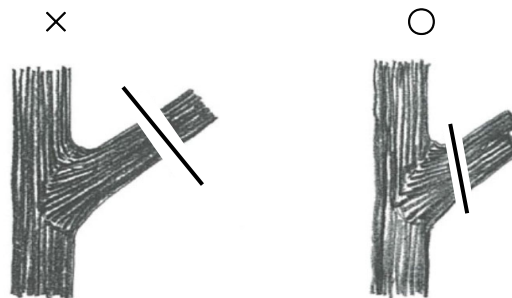
ア) 対象は、信号・標識等の視認に支障となっている枝、民地に越境している枝、台風、豪雪による枝折れ等、枯れ枝等とし、必ず根元から剪定すること。尚、剪定した箇所については、その後1年間程度支障とならないようにすること。

イ) 原則として支障枝は1本の樹木に対し、3枝までとする。

<剪定 参考図>

【ぶつ切りの禁止】

枝の途中でぶつ切りするのではなく、枝の分岐部の根元（ブランチカラー（枝の襟））を傷つけない位置）で剪定すること

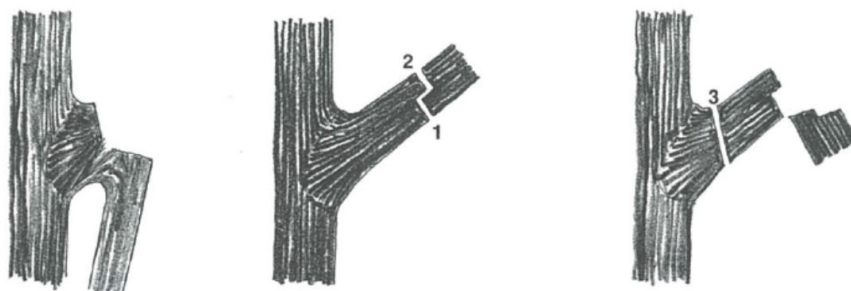


【太枝の剪定】

一度に大枝を切ると、枝の重さでつけ根から裂ける

1に切り込みを入れて枝の裂けを防ぎ、2にノコギリを入れて、枝先を切り落とす

「枝の襟（ブランチカラー）」を傷つけない位置3で軽くなった残りの枝を切り落とす

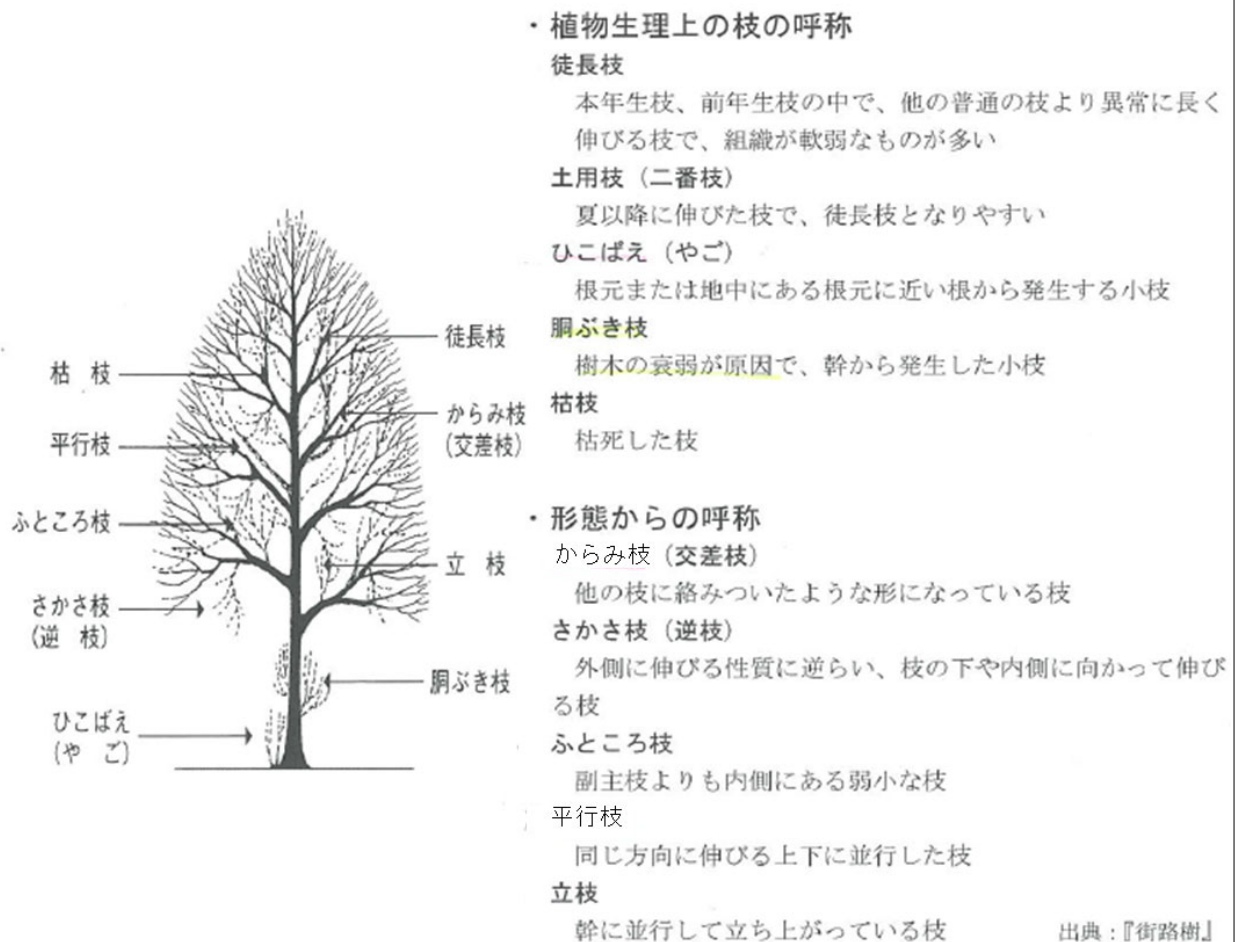


出典：『街路樹』

出典：（一社）日本造園建設業協会「街路樹剪定ハンドブック」 26 p 図 2-8

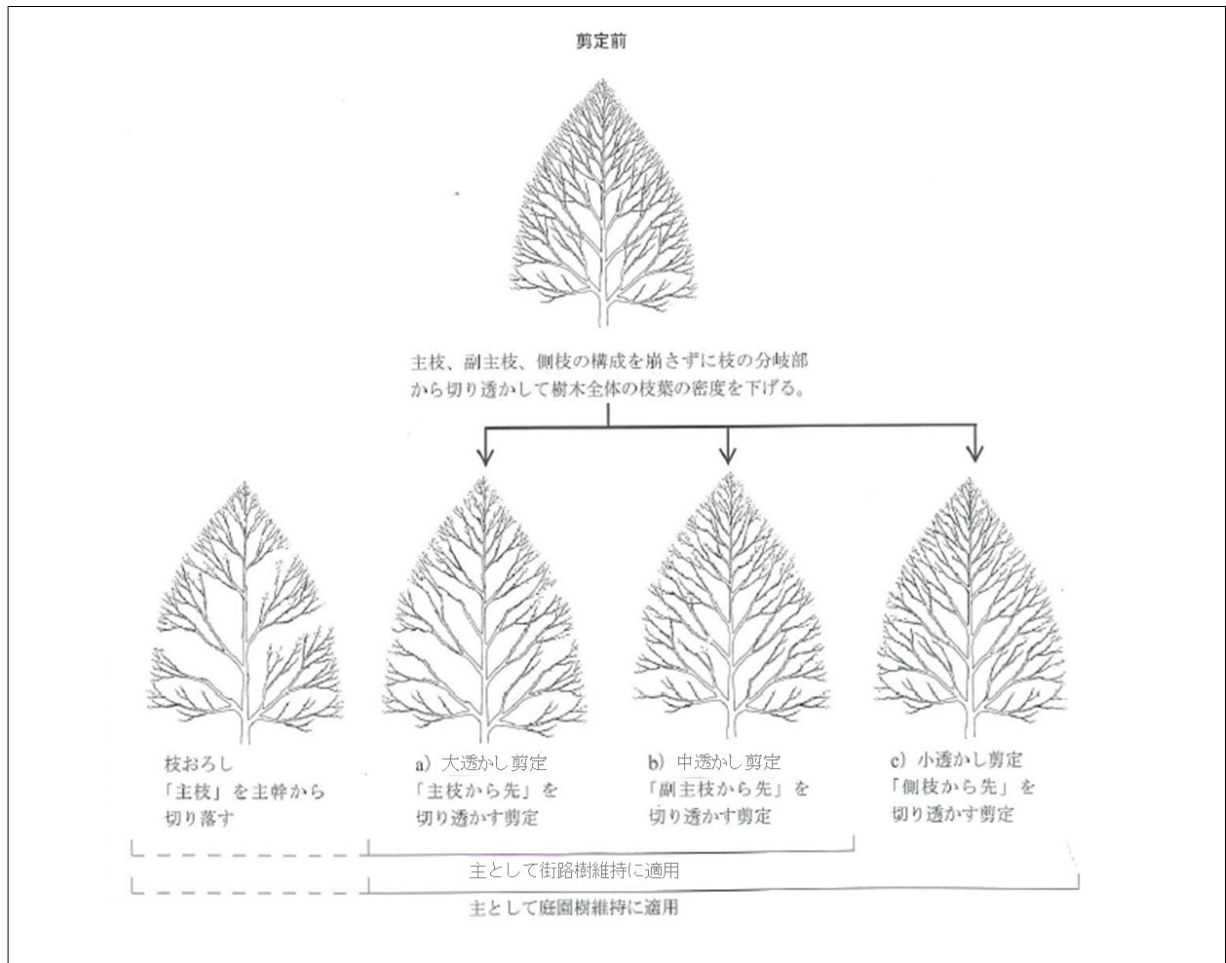
【主な不要枝】

- 徒長枝：当年生枝、前年生枝の中で、他の枝より異常に長く伸びる枝。
- 土用枝：春の成長が停止した後、夏以降に再び伸びる枝。徒長枝になりやすい。
- ひこばえ：根元、又は地中にある根元に近い根から発生する枝。別名やご。
- 胴吹き枝：樹木の衰弱等が原因で、幹から多数発生する小枝。
- からみ枝：他の枝に絡まるように伸びる枝。
- さかさ枝：樹木特有の性質に逆らって下方や樹冠内部に伸びる枝。
- ふところ枝：樹冠の内部で伸びる弱小な枝。
- 平行枝：同じ方向に近接して伸びる枝。
- 立枝：幹に平行して立ち上がって上に伸びる枝。



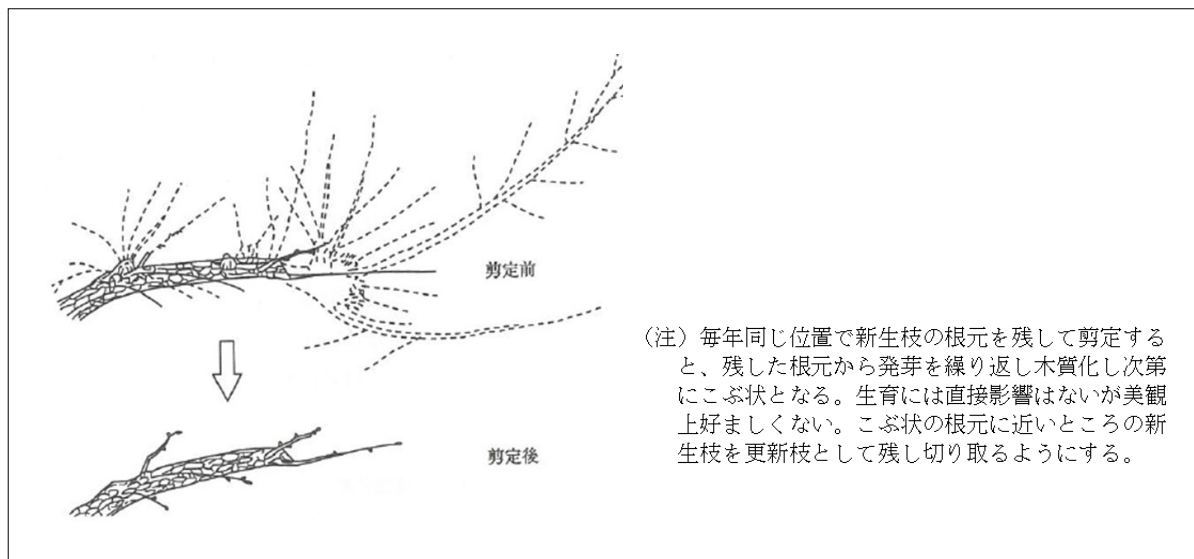
出典：（一社）日本造園建設業協会「街路樹剪定ハンドブック」 21 p 図 2-3

【枝抜き剪定】



出典：（一社）日本造園建設業協会「街路樹剪定ハンドブック」22 p 図 2-4

【切返し剪定（こぶ状枝）】

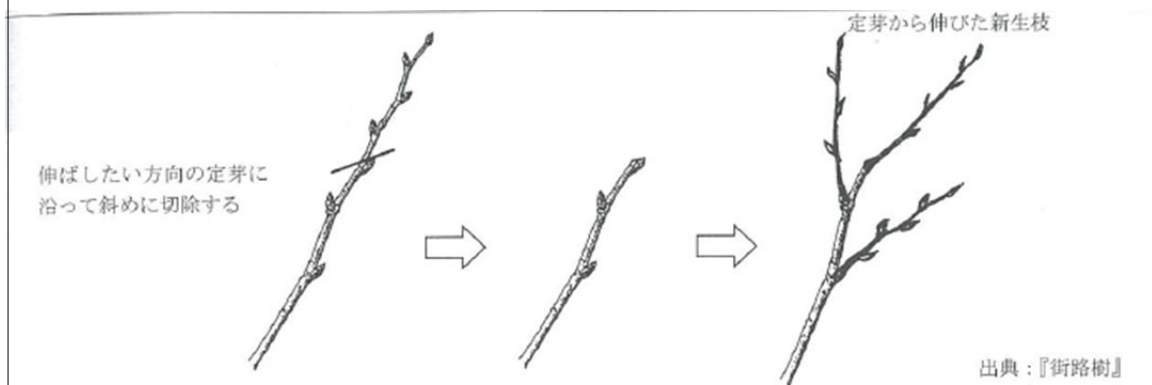


出典：（一財）経済調査会「緑化植栽マニュアル 計画・設計から施工管理まで」

392 p 図 7-12 より

【切詰剪定】

(定芽がある若い枝の切り詰め)

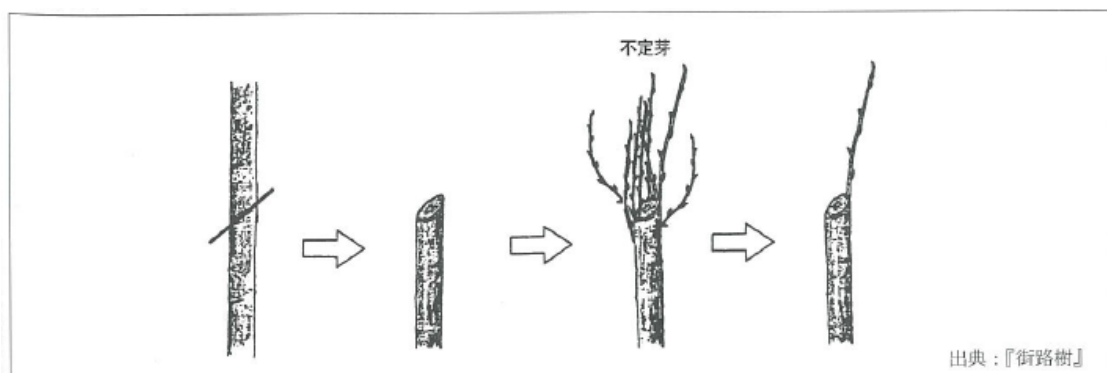


	適	不適
〈互生の場合〉		
〈対生の場合〉		

剪定後の枯れ込み部位

出典：(一社) 日本造園建設業協会「街路樹剪定ハンドブック」 27 p 図 2-9-①

(定芽のない古い枝の切り詰め)



出典：(一社) 日本造園建設業協会「街路樹剪定ハンドブック」 図 2-9-②

■ 支障木処理

<共通事項>

ア) 支障木処理の目的……支障木（枯れ木、半枯れなど倒木の恐れがあるもの、ベッコウタケなどに侵された木、サボテン、ユッカ、アロエなど棘や葉先で怪我をする恐れのあるもの、シュロ・ビワなどの実生木及び、景観上、樹木管理上若しくは利用上、不必要な樹木）を伐採・抜根などの処置を行うことで事故・災害を未然に防ぎ、安全を確保するとともに、景観性の向上、樹林環境の適正化を図ることを目的とする。

イ) 資格者の配置……作業にあたりチェーンソーを使用する場合には「チェーンソー作業員」又は「伐木作業員」を配置して、安全かつ適切に作業を行うこと。

ウ) 以下のような作業を行う際には、監督職員と協議し、周辺住民や利用者に対して事前に作業の内容、作業日時などについて「看板」等にて十分周知すること。

- ・公園等におけるシンボルツリーのような主要な樹木の剪定を行う場合
- ・やむを得ずぶつ切りや強剪定等樹木の容姿を著しく損なうような剪定を行う場合
- ・公園等の広範囲の樹木について大規模な剪定を行う場合

○ 支障木処理(伐採)

ア) 支障木、特に松の枯木について発見した場合は、はマツノザイセンチュウの可能性があるので、必ず監督職員に報告すること。

イ) 伐採にあたっては、伐採する樹木の樹形、傾き、周辺樹木、施設等に配慮して伐倒方向を決め、ロープ、チルホール等を使用し、周辺樹木、施設等を損傷しないよう注意すること。

ウ) 伐採する樹木の切り株は、地際より処理し周囲と段差を生じないようにすること。但し、ルートカラーが大きく地際での処理が困難な場合は、監督職員と協議して対応を決定すること。

エ) 枯木以外の伐採木については切り株より新芽が芽吹かないように、切断面の形成層に除草剤を塗布して、根まで枯らすようにすること。尚、除草剤は土壌への安全性が高い液体アミノ酸系（農薬登録品）を使用すること。

オ) マツノザイセンチュウによって枯死した松については、地面にシート等の養生を行ってチェーンソー等による切屑が残らないようにし、発生材については焼却処分とすること。

○ 支障木処理(抜根)

ア) 抜根にあたっては、根切りチェーンソーを用いて縁石など周囲に影響のある根を切断し、周辺樹木、施設、埋設物などを損傷しないよう十分に注意すること。

イ) 抜根によって生じた穴については周辺の土又は、植込み地用土を用いて埋め戻し及び整地を行って段差の無いようにすること。

■ 支柱撤去

既設の支柱について、本来機能を果たしていないものについて安全性及び、美観の確保の為に撤去を行うもの。

- ア) 他の作業中及び巡回中に、壊れて危険な支柱や腐食した支柱等、明らかに効果の無いもの並びに、樹木に食い込んでいる支柱を発見した時は監督職員に連絡し、対応について協議を行うこと。但し、ささくれや釘等により公園利用者に危険な場合は直ちに撤去を行い、監督職員に報告すること。
- イ) 二脚鳥居の添木が高木から外れている時は速やかに監督職員に連絡し、対応について協議を行うこと。ただし、添木が傾いて通行車両及び通行人に危険が生じる恐れがある場合は直ちに添木を撤去すること。
- ウ) 原則として樹木を損傷しない様に注意しながら引き抜くこと。但し、支柱に根が食い込んでいる場合は地際で切断すること。
- エ) 樹木に棕櫚縄・幹巻材等が残っている場合は合わせて取り除くこと。
- オ) 支柱が樹木の幹及び枝を傷めている場合は、損傷部に癒合剤を塗布して樹木の養生を行うこと。
- カ) 撤去によって生じた穴については、周辺の土を用いて埋め戻しを行い段差の無いようにすること。

■ 灌水

公園緑地等の樹木について良好な生育を維持するために行う。

- ア) 夏期などの乾燥の続いた時や新植樹木が活着するまでの期間及び、作業中に樹木の萎縮状態が少しでも見られた時は直ちに監督職員に報告し灌水について協議を行うこと。
- イ) 原則として早朝若しくは夕方に、枝葉に直接かからないよう注意しながら根元の土に十分な水を与えること。
- ウ) 地表面が乾燥して給水量が足りない時は、植物に水を供給することを念頭におき、時間を置いて再度灌水を行い十分な水を与えること。
- エ) 灌水によって表土の乱れや道路を汚さないようにし、通行人や通行車両、付近住民に迷惑をかけないように注意すること。
- オ) 公園内の灌水については公園内の水道施設を利用することができるものとする。
- カ) 生垣及び連続した中低木などは「寄植」とし、求積は投影面積とすること。

・ 高木標準灌水量

1 本当たり

幹 周 (cm)	30 未満	30～59	60～99	100～
灌水量 (ℓ)	25	45	60	80

・ 中低木標準灌水量

1 本当たり

種 別	1 本立ち
灌水量 (ℓ)	15

・ 中低木（生垣）標準灌水量（寄植）

1 m²当たり

種 別	寄 植
灌水量 (ℓ)	20

■ 病虫害防除

<共通事項>

- ア) 目的……病気や害虫により樹木が著しく損傷を受けたり、美観が損なわれたりする前に適切な措置を講じ、病虫害による被害を最小限にすることを目的に行う。
- イ) 害虫については、原則として剪定防除を第 1 に優先し、薬剤散布は、害虫が樹木全体に拡散して剪定防除では対応できない場合に行うこと。

○ 薬剤散布

ア) 薬剤散布の適用条件

- ・病虫害の発生していない樹木・影響範囲外の樹木及び、予防のための散布は絶対に行わないこと。尚、対象樹木・散布範囲は必要最小限度とする。

イ) 散布日時

- ・散布日時については監督職員と十分に協議し決定すること。
- ・薬剤散布は、無風又は風の弱いときに行う等、近隣に影響が少ない天候の日や時間帯を選ぶとともに、風向き、ノズルの向き等に注意すること。

特に田や畑近辺での散布については、作物のポジティブリスト制度（食品衛生法に基づく残留基準値が設定されていない農薬等が一定量以上含まれる食品の販売等を原則禁止する制度）があるため、必ずドリフト低減措置を行って周辺作物への影響防止対策を徹底すること。

- ・雨上がりの幹肌が濡れた状態及び、散布後の降雨の影響で薬剤が流れないように、十分な乾燥時間が取れない場合は散布を延期すること。

ウ) 資格者の配置

- ・薬剤散布は、「千葉県農薬管理指導士」の適切な指導管理の下行うこと。

エ) 薬剤散布の仕様・注意点

- ・農薬取締法に基づいて登録された当該防除対象物等に適用のある農薬を、ラベルに記載されている使用方法（使用回数、使用量、使用濃度等）及び使用上の注意事項を守って行うこと。
- ・病虫害の被害状況を良く把握し、薬剤には必ず展着剤を混合して残存効果期間を延ばすとともに、ドリフト低減措置を記載した散布計画書を提出して監督職員の承諾を得てから着工すること。
- ・薬剤散布は、樹幹、樹枝、枝葉の表裏をむらなく行うこと。
- ・使用農薬は汎用性のある非有機リン系農薬（薬剤散布 A）を使用し、害虫に耐性につかないよう農薬の種類を変更すること。（同一種類の継続は概ね 5 年程度とすること）
- ・チョウ、ガの幼虫駆除に特定する場合は、薬剤散布 B を使用し使用農薬は「フルベンジアミド水和剤」を使用すること。
- ・薬剤の空容器については、適正な処分をすること。
- ・散布後は、落下してきた害虫の清掃を行い、害虫の死骸による第三者への不快感を与えないようにすること。

オ) 周辺住民への配慮

- ・受託者は、周辺住民に対して事前に農薬の目的、散布日時、使用農薬の種類等

について「看板」及び「チラシ」等にて十分周知するとともに、散布作業時には、「立て看板」の表示等により住民が立ち入らないよう最大限の配慮を行うこと。

- ・散布後の一定期間(概ね1週間程度)、散布と薬剤等についての周知を行うこと。

カ) 散布後について

- ・散布完了日から2週間以内に害虫等が確認された場合には、受託者の責任において再度薬剤散布を行うこと。

キ) 作業記録

- ・受託者は、農薬を使用した年月日、場所及び対象植物等、使用した農薬の種類又は名称ならびに、使用した農薬の単位面積あたりの使用量及び希釈倍率を記載した農薬使用記録簿を作成し、一定期間(3年間)保管すること。

・主な害虫及び樹種

種 類	発生しやすい樹種	発見のポイント
チャドクガ	ツバキ、サザンカ類 (4～9月頃)	・葉表に整然と並んでいる。
モンクロシャチホコ	サクラ、ウメ等バラ科植物 (8～10月頃)	・葉に並んで群生するので、よく観察する。
イラガ	サクラ、シラカシ、カエデ、ベニカナメモチ等 (4～9月頃)	・集団で葉裏に寄生し食害するため、葉が透かし状になる。 ・地面に黒い虫糞が無数に落ちている。
アメリカシロヒトリ	サクラ、ハナミズキ、プラタナス、モミジバフウ、ウメ等 (5～10月頃)	・葉を糸でつづり合わせた巣網を作る。 ・葉脈を残して食害するので、葉が透かし状になる。
マツカレハ	クロマツ、アカマツ、ヒマラヤスギ、モミ等 (5、9月頃)	・集団で新芽を食害するため、被害部分が塊状になる。 ・枝の先に茶灰色の繭を作る。

・高木標準薬剤散布量

100本当たり

幹 周(cm)	30未満	30～59	60～89	90以上
散布量(ℓ)	170	350	560	770

・中低木標準薬剤散布量

100本当たり

樹 高(m)	0.6未満	0.6～1.0未満	1.0～2.0未満	2.0～3.0未満
散布量(ℓ)	70	100	150	220

- ・中低木標準薬剤散布量（寄植） 100 m²当たり

樹 高(m)	1.0 未満	1.0 以上
散布量(ℓ)	100	150

○ 剪定防除

- ア) 受託者は対象樹木を良く観察し、害虫の発生している枝をすべて、根元から剪定を行って害虫の捕獲を行い、取り残しの無いようにすること。
- イ) 剪定防除完了後 1 週間以内に巣網の取り残しが確認された場合には、受託者の責任において再度剪定防除を行うこと。
- ウ) 剪定枝の清掃は入念に行い、害虫の取り残しの無いようにすること。また、剪定枝については処分場による焼却処分などを行って害虫の拡散を防ぐこと。

■ 草刈・芝刈

<共通事項>

ア) 目的と工法

- ・草刈及び芝刈は、公園緑地及び植栽空間の美観を維持、又は利用性の向上、防犯・防災、及び草地環境の維持保全の為に、環境に合わせた工法で行う。

イ) 作業後について

- ・作業完了後 1 週間以内の確認時に、明らかな刈むら及び刈残しが見られた場合には、受託者の責任において再度行うこと。

ウ) 廃棄物の処理について

- ・除草による発生材は一般廃棄物とし、適切に処理した旨を示した伝票を提出しなければならない。但し、処分費が含まれない委託（刈りっぱなし、集草まで、運搬まで）に関しては、監督職員の指示による。
- ・作業範囲内の廃棄物（塵芥）については入口付近又は収集しやすいところに集積し、監督職員に連絡すること。

○ 人力除草

- ア) 人力除草の適用……人力除草は、植栽樹木の密度が高く、草刈機械の使用が不適当な場所や低木類を寄せ植えしてある場所などで人力にて行う作業のことを言う。

イ) 実施時期、実施範囲等

- ・実施回数(本委託期間中)……2 回とする。
- ・実施時期……1 回目は 7 月、2 回目は 10 月を想定している。尚、1 回目の除草については、江戸川花火大会の開催に合わせて行うこと。
- ・具体的な実施に当たっては、作業スケジュール（案）（別紙 4）を参照して、実施時期、実施範囲等について監督職員と十分に協議し決定すること。

ウ) 人力除草の仕様・注意点

- ・除草器具等を用い、既存植物を傷めないよう雑草を地際(刈高 0 cm)で刈り取ること。
- ・フェンスや樹木に絡まっている蔓性植物も全て地際で刈り取ること。

- ・除草範囲内について、実生の木がある場合は地際で刈り取るとともに、高木の高さ 2m 以下の胴吹き・ヤゴ及び垂れ下がった枝については除去し、伐採木より枝が伸びている場合も伐採面より除去を行うこと。
 - ・除草時に合わせて枯葉及びゴミの清掃を行うこと。尚清掃費は別途計上せず、人力除草計上の単価に含めるものとする。
 - ・刈草の収集や清掃を行うときは、刈草や塵埃が飛散しないように注意し、第三者及び車両などへ迷惑が掛からないようにすること。
- エ) 公園の除草は公園外周側溝との間の雑草も除去するものとする。但し、求積は公園外周の縁石内側までとする。

○ 草刈

ア) 適切な機械・手法の適用

- ・現場状況に応じ、適切な機械・手法（肩掛式、ハンドガイド式、人力等）を用い作業を行うこと。
- ・樹木周り、施設近辺においてはチップソー・ナイロンコードの使用は厳禁とし、必ず人力による作業を行って樹木及び施設等が損傷しないよう注意すること。尚、ハンドガイド式（HG 式）計上内における「肩掛式」「人力除草」による作業費、肩掛式計上内における「人力除草」による作業費は別途計上せず、ハンドガイド式計上及び肩掛式計上の各単価に含めるものとする。
- ・公園、その他障害物のない空地において 1,000 m²/か所を超える草刈は、原則としてハンドガイド+肩掛式を適用するが、樹木・施設などの障害物などがある場合は、状況に応じた機械・手法を適用する。
- ・河川敷及び堤防においては、原則としてハンドガイド式を適用するが、樹木・施設等の障害物等が多い場合は、状況に応じた機械・手法を適用する。

イ) 実施時期、実施範囲等

- ・実施回数(本委託期間中)……7 回（処分 2 回、刈りっぱなし 5 回）とする。
（江戸川河川敷緑地の桜並木箇所、ビオトープ箇所、高谷地区は処分 2 回、刈りっぱなし 3 回・河原河川敷駐車場は処分 4 回）
- ・実施時期……雑草の繁茂状況を確認し、監督職員と十分に協議し決定すること。尚、集草を伴う作業については、江戸川花火大会の開催に合わせて行うこと。
- ・具体的な実施に当たっては、作業スケジュール（案）（別紙 4）を参照して、実施時期、実施範囲等について監督職員と十分に協議し決定すること。

ウ) 草刈・芝刈の仕様・注意点

- ・刈込高（通常 1～3 cm 以下）等は、監督職員と十分に協議し決定すること。
- ・機械を用いて草刈・芝刈を行う場合は、ネットなどによる養生を十分に行い、第三者及び車両などへの飛石、防塵対策を徹底すること。
- ・草刈・芝刈時に樹木の幹肌を損傷し樹木が枯損した場合や施設に損傷を与えた場合は、受託者の負担で同等品の補植・補修を行うこと。
- ・刈りむら及び刈り残しのないよう均一に刈込むこと。
- ・フェンスや樹木に絡まっている蔓性植物も全て地際で刈り取ること。
- ・草刈・芝刈範囲内について、実生の木がある場合は地際で刈り取るとともに、

高木の高さ 2m 以下の胴吹き・ヤゴ及び垂れ下がった枝については除去し、伐採木より枝が伸びている場合も伐採面より除去を行うこと。

- ・刈りっぱなし箇所においても、出入口付近及び舗装通路部等においては刈草を取除くこと。
- ・芝生地については、ほふく茎が芝生地内外の施設に乗り上がらないよう、又、低木の根元に進入しないよう、芝生の縁切りを行うこと。
- ・草刈・芝刈時に合わせて枯葉及びゴミの清掃を行うこと。尚、清掃費は別途計上せず、草刈・芝刈計上の各単価に含めるものとする。
- ・刈草の収集や清掃を行うときは、刈草や塵埃が飛散しないように注意し、第三者及び車両などへ迷惑が掛からないようにすること。

エ) 公園の草刈、芝刈は公園外周側溝との間の雑草も除去するものとする。但し、求積は公園外周の縁石内側までとする。

■ 清掃

公園、緑地等において、機能性及び美観の向上を図るもの。

<共通事項>

時期及び施工範囲について監督職員と十分に協議し決定すること。

○ ゴミ拾い

ア) 吸殻、空き缶、ビニール等のゴミ処理を目的とし、公園等の美観を維持すること。

イ) 作業は草刈を実施しない月に行うものとし、作業スケジュール（案）（別紙 4）を参照して、実施時期、実施範囲等について監督職員と十分に協議し決定すること。

ウ) ゴミ処理について

- ・清掃によるゴミは河川敷内のゴミ箱に収集しやすいように集積し、監督職員に集積箇所及び集積量の報告をすること。
- ・基本は「燃やすごみ」「燃やさないごみ」の分別収集とするが、分別方法については監督職員に確認しその指示に従うこと。

エ) 清掃に必要な用具類、消耗品、ゴミ袋等については受託者の負担とする。

○ U型側溝清掃・管渠清掃・集水桝清掃・U型側溝蓋取替

ア) 構造物などを汚さないように、側溝底、集水桝泥留めに堆積した土砂を取り除くこと。なお、構造物を汚した場合は清掃して汚れを取り除くこと。

イ) 発生した残土については監督職員と協議を行い、場内で敷き均せない場合は場外（塩浜 4 丁目緑地）に運搬し、敷き均しを行うこと。

ウ) 割れや欠け等の生じた側溝蓋を撤去し、脱落の危険がないよう大きさの合う側溝蓋を設置すること。

エ) 撤去した側溝蓋には処分費が含まれているので、適切に処分すること。

○ ベンチ水洗い

- ア) 水洗い又は洗剤を用いて、鳥の糞・樹液等を取り除くこと。
- イ) 洗浄後は水を拭きとって速やかに利用できるようにすること。

■ 樹木等植栽

公園、緑地等の樹木の枯れた跡及び裸地部分に植栽を行って、景観の向上を図るもの。

<共通事項>

- ア) 時期、樹種及び施工範囲について監督職員と十分に協議し決定すること。
- イ) 材料は発育良好で病虫害に侵されていないものとし、あらかじめ植出しに耐えられるよう栽培され、細根が多く発生しており、かつ徒長していない整一な形姿のものとする。
- ウ) 基本は植え付け時に発酵鶏糞又は有機肥料の混合とするが、土の状況を考慮しより適した有機肥料及び施肥量を監督職員と十分に協議して決定すること。
- エ) 植え付けに際しては根鉢周囲を良く耕転し、根の伸長を促すこと。
- オ) 材料搬入確認後直ちに植え付け及び、水極めを行って根部の周りに空隙を生じないようにし、活着に努めること。
- カ) 植え付け後1年以内に枯死又は形姿不良（枯枝が樹冠部の概ね3分の2以上となった場合又は、通直な主幹をもつ樹木については、樹高の概ね3分の1以上の主幹が枯れた場合をいい、確実に同様の状態になると想定されるものを含む）となった場合は、受託者の負担で植え直しを行うこと。尚、枯死又は形姿不良の判定は監督職員と立会いのうえ行うものとする。
- キ) 占用地へ植栽をする際には、市から河川管理者等へ申請を行い、許可を得た後に作業を行うこと。

○ 高木植栽

- ア) 幹巻は主幹の2/3以上行うこと。
- イ) 植え付けに際しては、公園内から見て樹木を正面とすること。
- ウ) 支柱の規格については、監督職員と協議して決定すること。
- エ) 下枝を切る高さ及び位置については公園利用者を考慮し、監督職員と協議して決定すること。
- オ) 水鉢を設けて樹木の活着に努めること。

○ 低木植栽【公園・街路樹】

- ア) 花の色については、監督職員の指示によるものとする。
- イ) 植え付けは4~6本/m²を基本とし、監督職員と協議して決定すること。
- ウ) 灌水後に樹木の浮き上がりが見られた時は植え直しを行うこと。

標準施肥量

規 格	高木 (g/本)	低木 (g/本)
-----	----------	----------

施肥量	2,000	200
-----	-------	-----

■ 支柱設置

高木植栽時にはまだ十分な根が張っていないため、強風等により樹木が倒れたり、新しく張り出した根が切断されたりしないように支柱を設置して、樹木の生長を助けることを目的とする。

<共通事項>

- ア) 杉丸太類はタナリス注入材同等品以上とする。
- イ) 設置する支柱の形状については、監督職員と協議して決定すること。
- ウ) 支柱の形状については、国土交通省土木工事標準設計図集【平成15年東北地方整備局版】を標準とする。

○ 二脚鳥居設置

- ア) 設置に際しては公園内から見て樹木を正面とすること。
- イ) 連続する場合は高さ、通りを通して設置すること。

標準対応幹回り (cm)

二脚(無)	二脚(有)
20～29	～29

■ 見回り

<共通事項>

<共通事項>

管理している公園及び広場の「樹木」「遊具」「パーゴラ」「ベンチ」など施設の状況確認を行って、危険箇所の早期発見及び市民の安全を図ることを目的とするもの。

○ 見回り

- ア) 受託者は、監督職員から指示があったとき（台風・豪雨・豪雪などが予想される場合）は、管理地区内の公園及び広場全箇所の確認を行い、樹木の「倒木」「枝折れ」、施設の「倒壊」などの被害状況の有無について口頭にて直ちに報告し、その後書面（打合せ簿）にて提出すること。
- イ) 被害があったときは被害状況について監督職員と協議を行い、公園及び広場が安全に利用できるように対策をとること。
- ウ) 被害が甚大で早急な対応ができない場合は「立入禁止」などの措置を行った後、出来るだけ早く開放できるように協議を行うこと。
- エ) 見回りの単位は、公園及び広場など全箇所の確認をもって1回とする。

○ 緊急点検

- ア) 受託者は、監督職員から指示があったときは、速やかに指示された公園及び広場の樹木の「倒木」「枝折れ」、施設の「倒壊」などの確認を行い、被害状況の有無について口頭にて直ちに報告し、その後書面（打合せ簿）にて提出すること。

イ) 被害が有ったときは被害状況について監督職員と協議を行い、公園及び広場が安全に利用できるように対策をとること。

ウ) 被害が甚大で早急な対応ができない場合は「立入禁止」などの措置を行った後、出来るだけ早く開放できるように協議を行うこと。

エ) 緊急点検の単位は、公園及び広場など1か所の確認をもって1か所とする。

○ 半倒木、倒木復旧

ア) 受託者は、見回り及び緊急点検で発見した樹木の倒木状況を委託者に報告し、伐採・復旧などについて協議を行うこと。

イ) 樹木の復旧に合わせて、剪定及び支柱を設置して復旧樹木の活着に努めること。
なお、剪定費用は倒木復旧費用に含まれるものとする。

ウ) 根が完全に浮き上がっている状態を「倒木」、それ以外の状態を「半倒木」とする。

○ トイレ、サッカーゴール、ゴミ箱、ベンチ、用具入れ類移動、バックネット倒し

ア) 台風の影響及び長雨により、江戸川上流部において大雨が想定される場合は構造物などの移動準備に入ること。

イ) 国土交通省から高水敷上の構造物などの移動指示が出た場合、受託者は直ちにトイレ、サッカーゴール、ゴミ箱、ベンチなどを所定の仮置き場への移動を行って、高水敷上から障害物を取り除き冠水に備えること。

ウ) トイレ（大）は水道管の止水栓の閉鎖を行ってからトイレとの接続を取り外し、牽引時にトイレが外れたり壊れたりしないように注意して牽引車に連結すること。

エ) トイレ（小）、ゴミ箱、ベンチ、用具入れ類は「変形」「破損」しないように注意しながら、搬出車両への積込及び運搬を行うこと。

オ) トイレの汚物でトイレ内及び、周囲が汚れないように十分注意して作業を行うこと。

カ) 復旧時に設置箇所、止水栓及び水道管の位置が分かるように、杭などの目印を設置すること。なお、目印については冠水した江戸川の流れて無くならないように注意すること。

キ) 江戸川の高水敷及び管理用通路内は、ハザードランプを点灯し最徐行にて通行すること。

ク) 仮置き場にて、トイレ（大）が移動しないように車輪止めを設置すること。

ケ) 仮置き場にて、トイレ（小）が転倒・破損しないようにロープなどを用いて固定すること。

コ) 仮置き場にて、サッカーゴールは転倒しないように寝かして配置すること。

サ) 仮置き場にて、サッカーゴールは転倒しないように寝かして配置すること。

シ) 仮置き場にて、トイレ、サッカーゴール、トイレ（小）、ゴミ箱などの周囲にカラーコーンを配置して、立入禁止措置を行うこと。

ス) 野球場グラウンドのバックネットについて、固定しているボルト及びナットを取り外し、バックネットを倒すこと。

セ) バックネットを倒す際には、事前にネットを張るワイヤを緩めてから作業を行うこと。

ソ) 取り外したボルト及びナットは紛失することがないように、外した固定穴に止めること。

仮置き場

対象物	仮置き場
トイレ（大）	大洲防災公園、稲荷木緑道（左岸）・新宿前公園（右岸）
トイレ（小）	大洲防災公園、稲荷木緑道（左岸）・新宿前公園（右岸）
サッカーゴール	大洲防災公園（左岸）・新宿前公園（右岸）
ゴミ箱	大洲防災公園、稲荷木緑道（左岸）・新宿前公園（右岸）
ベンチ、用具入れ類	大洲防災公園、稲荷木緑道、里見公園（左岸） 新宿前公園（右岸）

※各設置箇所から仮置き場までの距離は、1 km～1.5 km程

○ トイレ、サッカーゴール、ゴミ箱、用具入れ類、バックネット復旧

ア) 受託者は、高水敷の冠水が無くなり、車両が入れるようになった場合、仮置き場から当初の設置場所への復旧を行うものとする。なお、復旧時期については江戸川の高水敷の状況について、監督職員との現地確認後に協議を行って決定すること。

イ) トイレ（大）については設置及び水道管接続後に、給水管全体に保温テープを巻き付けて凍結防止対策を行うこと。

ウ) トイレの汚物でトイレ内及び、周囲が汚れないように十分注意して作業を行うこと。

エ) 倒してあるバックネットを起こして、ボルト及びナットで固定し、緩んだワイヤを張ること。

オ) 江戸川の高水敷及び管理用通路内は、ハザードランプを点灯し最徐行にて通行すること。

8 添付資料

- ・案内図
- ・業務内容・予定数量一覧表
- ・参考数量表
- ・作業スケジュール（案）
- ・業務完了報告書
- ・作業スケジュール（案）

- ・・・別紙 1
- ・・・別紙 2
- ・・・別紙 3
- ・・・別紙 4
- ・・・別紙 5
- ・・・別紙 6

9 施工体制

草刈及び除草は、特別な事情が無い場合、指示日から 4 週間以内に作業を完了させるよう人員配置を行うこと。

10 提出書類及び成果品関係

①提出書類

ア) 提出書類については、共通仕様書 5 に準拠すること。なお、緊急時の連絡体制に時間経過ごとの「出勤可能人員」「出勤可能車両」「資機材」を記載すること。

イ) 原則として提出書類の提出方法については電子納品とし、Word、Excel 又は PDF 形式で作成し、「委託打合せ簿」により CD-R 又は DVD-R にて提出すること。

ウ) 業務計画書の各種書類には押印マークを表記せず、「社印」「業務責任者」などの押印は不要とする。

②成果品関係

ア) 成果品（完成品）を期ごとに以下の日までに提出すること。

1 期（委託期間開始日 ～ 8 月 31 日まで）：1 期終了後 20 日以内

2 期（9 月 1 日 ～ 12 月 31 日まで）：2 期終了後 20 日以内

3 期（1 月 1 日 ～ 委託期間満了日）：委託期間満了日

イ) 上記提出期限に関わらず出来高数量について監督職員から求めがあった時は、求めた日から 7 日以内に書面にて回答すること。

ウ) 原則として成果品の提出方法は、「完了届」「業務完了届」「委託打合せ簿」については書面による提出とし、それ以外は電子納品とし CD-R 又は DVD-R にて提出すること。

エ) 原則として電子納品の報告書は A4 縦とし、報告内容は「出来高数量総括表」「出来高集計表（出来高数量総括表の根拠）」「求積図（出来高集計表の根拠）」「各種出来高（出来高集計表の根拠）」「実施工程表」「週間工程表」「作業報告書」「各種伝票の写し」「農薬使用記録簿の写し」「安全教育等記録の写し」「その他当該業務に必要と認めた書類」「作業写真」とする。なお、「作業写真」以外については Word、Excel、または PDF 形式とすること。

オ) 電子納品の各種報告書には押印マークを表記せず、「社印」「業務責任者」などの押印は不要とする。

カ) 原則として委託者が受託者に対して公園の基本データを貸与した場合は、出来形（求積図、平面図など）についてはデータの修正を行って、DWG 又は DXF 形式で作成し、データを CD-R 又は DVD-R にて提出すること。

キ) 人力除草、草刈、芝刈などにおいて委託者から数量の指示及び提供があった場合は、指示及び提供された数量をもって出来高とし、求積図及び平面図を省略することができるものとする。ただし、委託者から提供された数量が現地と大きく相違がある場合、求積図などを修正し提出すること。

ク) 各工種において出来高総括表の合計値は、小数点以下を切り捨てた整数とすること。（各単価において請求段階で小数点を切捨てること）

ケ) 原則としてデジタル写真撮影とし、「土木工事写真管理基準 国土交通省」に準じて撮影を行うこと。

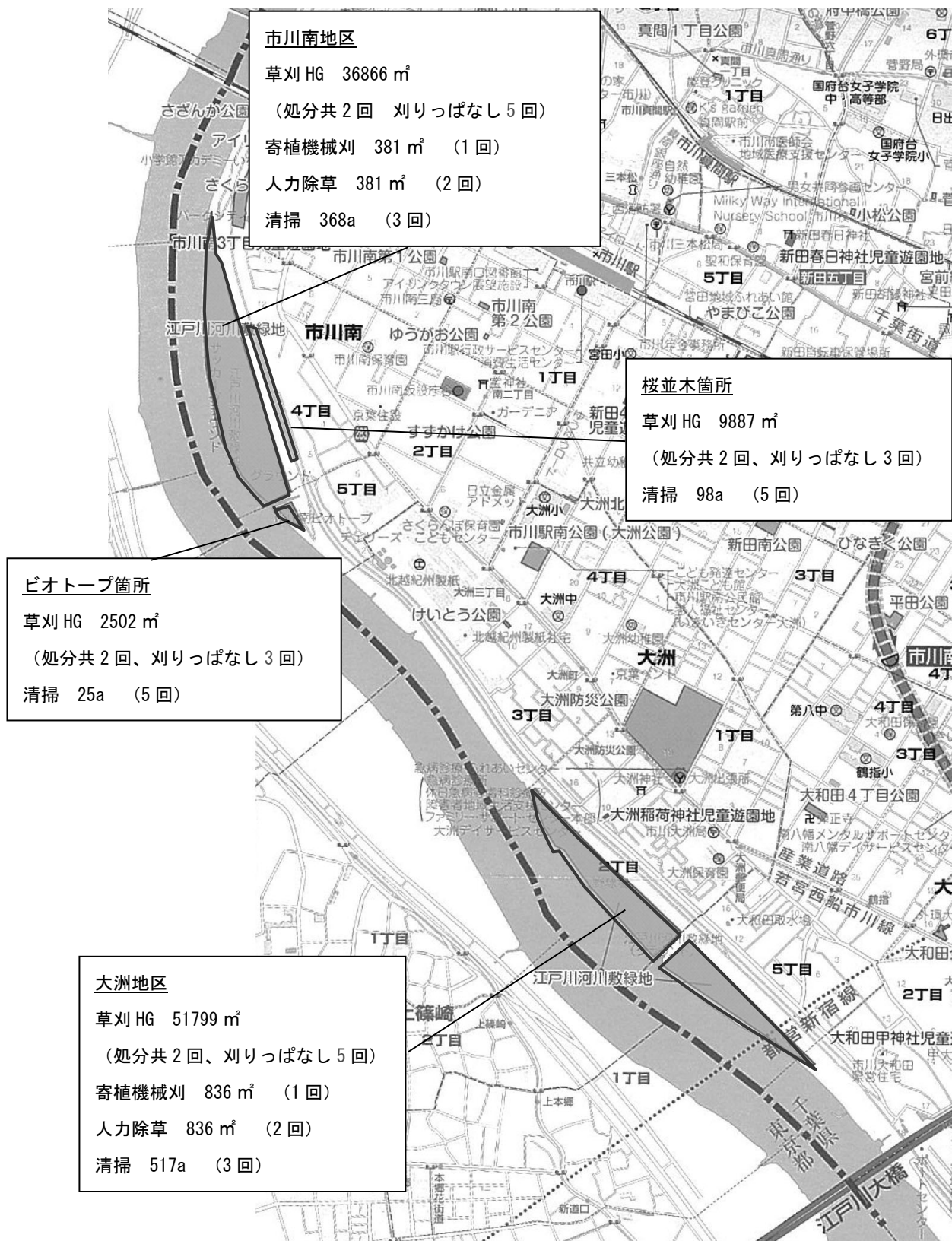
コ) 写真撮影に当たっては、カメラの日時を正確に合わせること。

1 1 そ の 他

ア) 受託者が詳細な案内図を求めた場合は、委託者が支給するものとする。

イ) 原則として、台風などの緊急時の作業については作業内容により、「基本剪定」「軽剪定」「支障枝処理」「伐採」「抜根」「清掃（落葉時）」「半倒木復旧」「倒木復旧」にて対応すること。

江戸川河川敷緑地位置図 1 / 2



※回数はすべて委託期間内の予定回数

江戸川河川敷緑地位置図 2 / 2



※回数はすべて委託期間内の予定回数

業務内容・予定数量一覧表

別紙2

名 称	規 格	単位	予定数量	備 考
【公園】				
剪定				
高木基本剪定	C=30cm未満	本	1	
高木基本剪定	C=30～59cm	本	1	
高木基本剪定	C=60～89cm	本	1	
高木基本剪定	C=90～119cm	本	1	
高木軽剪定	C=30cm未満	本	1	
高木軽剪定	C=30～59cm	本	1	
高木軽剪定	C=60～89cm	本	1	
高木軽剪定	C=90～119cm	本	1	
中木剪定		本	1	
寄植機械刈込	H=1.5m未満	m ²	1,572	
支障枝剪定	高木、人力	本	2	
支障枝剪定	高木、リフト車	本	2	
マツ剪定				
マツ基本剪定	C=30cm未満	本	1	
マツ基本剪定	C=30～59cm	本	1	
支障木処理				
低木伐採	H=1m未満	本	1	
中木伐採	H=1～2m未満	本	1	
中木伐採	H=2～3m未満	本	1	
高木伐採	機械、C=20cm未満	本	1	
高木伐採	機械、C=20～29cm	本	1	
高木伐採	機械、C=30～59cm	本	1	
高木伐採	機械、C=60～89cm	本	1	
高木伐採	機械、C=90～119cm	本	1	
低木抜根	H=1m未満	本	1	
中木抜根	H=1～2m未満	本	1	
中木抜根	H=2～3m未満	本	1	
高木抜根	機械、C=20cm未満	本	1	
高木抜根	機械、C=20～29cm	本	1	
高木抜根	機械、C=30～59cm	本	1	
高木抜根	機械、C=60～89cm	本	1	
高木抜根	機械、C=90cm以上	本	1	
支柱撤去				
丸太1本支柱撤去	生垣含む	本	1	

名 称	規 格	単位	予定数量	備 考
二脚鳥居撤去	添木無し	本	1	
二脚鳥居撤去	添木有り	本	1	
三脚鳥居撤去		本	1	
八ツ掛支柱撤去		本	1	
灌水				
灌水	C=30cm未満	本	1	
灌水	C=30～59cm	本	1	
灌水	中低木	本	1	
灌水	寄植	m ²	1	
病虫害防除				
薬剤散布 A	C=60cm未満	本	1	
薬剤散布 A	C=60～119cm	本	1	
薬剤散布 A	H=1m未満	m ²	1	
薬剤散布 A	H=1m以上	m ²	1	
薬剤散布 B	C=60cm未満	本	1	
薬剤散布 B	C=60～119cm	本	1	
薬剤散布 B	H=1m未満	m ²	1	
薬剤散布 B	H=1m以上	m ²	1	
剪定防除	高木	本	1	
剪定防除	H=1m未満	本	1	
剪定防除	H=1～3m未満	本	1	
剪定防除	中低木	m ²	1	
草刈				
河川敷人力除草		m ²	3, 144	
河川敷草刈（肩掛式）		m ²	8, 340	
河川敷草刈（HG式）		m ²	299, 302	
河川敷草刈（HG式）	刈りっぱなし	m ²	721, 067	
清掃				
ゴミ拾い		a	4, 049	
U型側溝清掃	場内敷き均し	m	5	
U型側溝清掃	場外敷き均し	m	5	
U型側溝蓋取替	薄蓋	枚	2	
U型側溝蓋取替	厚蓋	枚	2	
集水桝清掃	場内敷き均し	か所	2	
集水桝清掃	場外敷き均し	か所	2	
管渠清掃	機械	m	2	
ベンチ水洗い	W=1800mm以内	基	2	

名 称	規 格	単位	予定数量	備 考
植込地管理				
ソメイヨシノ植栽	H=4.0 C=0.21 W=1.8	本	1	
カワヅザクラ植栽	H=4.0 C=0.21 W=1.5	本	1	
ヒラドツツジ植栽	H=0.5 W=0.5	本	2	
ハマヒサカキ植栽	H=0.5 W=0.4	本	2	
二脚鳥居設置	添木無し	組	2	
二脚鳥居設置	添木有り	組	2	
広場管理				
ロープ柵設置	φ16×1500 2段	本	2	
ロープ柵設置	支給品	本	2	
見回り				
見回り	公園及び街路樹全箇所	回	3	
緊急点検		か所	2	
緊急点検	夜間	か所	2	
半倒木復旧	C=30cm未満	本	1	
半倒木復旧	C=30～59cm	本	1	
半倒木復旧	C=60～89cm	本	1	
倒木復旧	C=30cm未満	本	1	
倒木復旧	C=30～59cm	本	1	
倒木復旧	C=60～89cm	本	1	
トイレ（大）移動	約2000×2500×2760	基	1	
トイレ（小）移動	約840×1160×2120	基	1	
サッカーゴール移動		基	1	
ゴミ箱移動		基	1	
用具入れ類移動		基	1	
バックネット倒し		基	1	
トイレ（大）復旧	約2000×2500×2760	基	1	
トイレ（小）復旧	約840×1160×2120	基	1	
サッカーゴール復旧		基	1	
ゴミ箱復旧		基	1	
用具入れ類復旧		基	1	
バックネット復旧		基	1	

※本委託は単価契約のため、設計書の数量については目安とし、監督職員との協議によって行った実績作業数量を清算数量とする。

※植栽以外の高木の規格は高さにかかわらず、幹回りによって決定するものとする。

※各作業において、対象樹木、作業箇所などについては、監督職員の指示若しくは監督職員と立ち会って決定する。

参考数量表

No. 地 区 管理面積			寄植機械刈(㎡)				河川敷人力除草(㎡)				河 川 敷 草 刈 (㎡)				清 掃(㎡)			備 考
			H=1.5m未満		植込部		肩掛け式	ハンドガイド式				ゴミ拾い・収集						
								集草		刈りっぱなし								
			年1回		年2回		年5回		年3回		年3～6回		年3～7回					
期間中1回		期間中2回		期間中4回		期間中2回		期間中3～5回		期間中3～6回								
			1回あたり	回数	1回あたり	委託期間中	1回あたり	回数	1回あたり	委託期間中	回数	1回あたり	委託期間中	回数	1回あたり	委託期間中		
江戸川河川敷																		
①	市川南・大洲地区	126,806㎡ ※ピオトーフ含む	1,217	2 回	1,217	2,434	－	2 回	88,665	177,330	5 回	88,665	443,325	3 回	88,665	265,995	野球場内野を除く	
②	市川南・大洲地区 (桜並木・ピオトーフ部分)		－	－	－	－	－	2 回	12,389	24,778	3 回	12,389	37,167	5 回	12,389	61,945	〃	
③	稲荷木地区	26,243㎡	－	－	－	－	－	2 回	20,720	41,440	5 回	20,720	103,600	3 回	20,690	62,070	〃	
④	高谷地区	1,190㎡	15	2 回	15	30	－	2 回	1,205	2,410	3 回	1,205	3,615	5 回	1,180	5,900		
⑤	河原地区(行徳橋上流部)	23,390㎡	－	－	－	－	－	2 回	21,117	42,234	5 回	21,117	105,585	－	－	－		
⑥	河原地区(行徳橋下流部)	5,895㎡	340	2 回	340	680	－	2 回	5,555	11,110	5 回	5,555	27,775	－	－	－		
⑦	河原地区(駐車場)	1,800㎡	－	－	－	－	580	－	－	－	－	－	－	－	－	－		
⑧	河原地区(駐車場脇緑地帯)	1,272㎡	－	－	－	－	1,505	－	－	－	－	－	－	6 回	1,505	9,030		
計	1回当たり		1,572		1,572		2,085		149,651			149,651			124,429			
	合 計		1,572		3,144	8,340			299,302			721,067			404,940 ㎡			
															4,049 a			

※

作業スケジュール表(案)

	作業箇所	作業内容	年間	期間中	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①	市川南・大洲地区	寄植機械刈	1回	1回												
		人力除草	2回	2回												
		ハンドガイド集草	3回	2回												
		ハンドガイド刈りっぱなし	6回	5回												
		清掃	3回	3回												
②	市川南・大洲地区(桜並木部分)	ハンドガイド集草	3回	2回												
		ハンドガイド刈りっぱなし	3回	3回												
		清掃	6回	5回												
③	稻荷木地区	ハンドガイド集草	3回	2回												
		ハンドガイド刈りっぱなし	6回	5回												
		清掃	3回	3回												
④	高谷地区	寄植機械刈	1回	1回												
		人力除草	2回	2回												
		ハンドガイド集草	3回	2回												
		ハンドガイド刈りっぱなし	3回	3回												
		清掃	6回	5回												
⑤	河原地区(行徳橋上流部)	ハンドガイド集草	3回	2回												
		ハンドガイド刈りっぱなし	6回	5回												
⑥	河原地区(行徳橋下流部)	寄植機械刈	1回	1回												
		人力除草	2回	2回												
		ハンドガイド集草	3回	2回												
		ハンドガイド刈りっぱなし	6回	5回												
⑦	河原地区(駐車場)	肩掛け式	5回	4回												
⑧	河原地区(駐車場脇緑地帯)	肩掛け式	5回	4回												
		清掃	7回	6回												

※本委託では、6月～3月の作業を対象とする。

※清掃は草刈を実施しない月に行うものとする。

業 務 完 了 報 告 書

令和 年 月 日

市 川 市 長 様

住所

氏名

下記のとおり 期分の業務報告をいたします。

1. 契約件名 _____

2. 施行場所 _____

3. 契約日 令和 年 月 日

4. 委託期間 令和 年 月 日から

令和 年 月 日まで

5. 支払期の期間 令和 年 月 日から

令和 年 月 日まで

6. 支払金額 _____ 円

完 了 届

令和 年 月 日

市 川 市 長 様

住 所

商号又は名称

氏 名

印

下記のとおり業務が完了したので、届出をします。

1. 業 務 名 _____

2. 施 行 場 所 _____

3. 契約年月日 令和 年 月 日

4. 請負代金額 _____ 円

5. 委 託 期 間 令和 年 月 日から

令和 年 月 日まで

6. 完了年月日 令和 年 月 日